

# 平成 30 年度 第 1 回 泉区地域福祉保健推進協議会 会議録

日 時 平成 30 年 7 月 4 日（水）14 時～16 時 10 分

会場 泉区役所 4 階 4AB 会議室

出席 51 名

## 内容

開会あいさつ

泉区地域福祉保健推進協議会について説明

## 【議題】

- 1 第 3 期泉区地域福祉保健計画の 29 年度の振り返りと 30 年度の実施計画について説明  
資料に基づき、区計画に沿った各取組の「29 年度実施結果」PDF 及び「30 年度実施計画」PDF について説明。
- 2 中間振り返りについて
  - ・今年度は、第 3 期泉区地域福祉保健計画の 3 年目にあたるので、それぞれが取り組んできて良かったことやさらに充実させたい取組について振り返り、第 4 期計画の策定につなげられるよう、中間振り返りを実施します。12 地区では 11 月末までに、関係機関については別途御依頼させていただきますので、御協力をお願いいたします。
- 3 意見交換  
テーマ「28 年度・29 年度を振り返り、連携がうまくいった取組についてと今後に向けて」に沿って、各グループで意見交換を行った。
- 4 各グループより発表と村井委員よりコメント  
<村井委員よりコメント>
  - (1 グループ)
    - ・新しいつながり作りをするためには、まずはきっかけを作ること。声を掛けていく仕組みを作る。連携しながら、お互いのできないことを補完し合う。
  - (2 グループ)
    - ・垣根を越えて連携を深めるためには、つなぐ仕組みが必要。1 と 2 グループに共通していることは、相互理解。お互いのことがわかると連携ができていく。
  - (3 グループ)
    - ・「ボランティア」という言葉を使うと人は来なくなる。イメージが、登録させられる、組織に縛られる、役をやらされるなどがあるよう。ボランティアを全面に出さずに、これだけならできるというメッセージを添える。職場体験すると、2 割の方は就職につながる。1 人でも 2 人でも丁寧にお迎えすることが大事。
    - ・連携は、連携をしないと機能しない・やっていけないという状態になるとよい。
    - ・防災・防犯は日頃からのつながりがないと難しい。福祉課題として位置付ける。

(4 グループ)

- ・ 認知症の普及啓発では、認知症に気付くきっかけ作りが必要。
- ・ 子育てでは、子どもを生き育てていく場所をどれだけ作れるかということが、豊かな人間関係を作ることにもつながるので、連携の機会を探る仕組みづくりを行うことが大切。

(5 グループ)

- ・ この協議会の場が、連携を生み出す母体であることを再認識した。連携を実現させていくことが大切である。
- ・ 認知症の認識や支援を行うきっかけを作ることで、いいつながりができる。

## 5 その他 連絡事項

(1) 横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた泉区行動指針について説明。

(2) 第3期泉区地域福祉保健計画推進イベントについて説明とパネルの作成や展示について依頼。

閉会あいさつ